

納む、亦元祿九年輿地圖成る、其後文化十二年測量圖成る、是れ下總の住民伊能勘解由忠敬なるもの、製する所也、勘解由推測の術、天文地理に通曉し、勉勵して其學を研究す、其間猶疑團甚多く、之を胸中に蓄へ、廣く古書を窺ひ、遠く術者に問ふ、其頃高橋作左衛門景保^號なるもの、測量天文學を以て幕府に聘せられ、西洋法式を主張す、伊能氏其說を聞くに及びて、疑團冰解し、其術益々進む、於是終に雇を以て全國測量を命ぜらる、寒暑を不避從事數年、足跡邦内に普く、遂に測量全圖を製せり、此圖成るに及びて、始めて我邦地形の眞面目を見るを得たり、嗚呼伊能氏其志の篤く、其術の精しき、古より未だ曾てあらざる所にして、後又是に繼ぐ者無きなり、

中古より今に及ぶまで、歐羅巴洲我が國圖を收るもの、此測量を根據と爲さるはなし、茲に其大略を記さん、

文政の末年、和蘭加比丹江戸に來り、定規の拜禮を修む、此時其附屬の醫シーボルトなる者、諸學に通曉し、其名尤高し、高橋氏學術研究の爲め官許を得て、暫時面晤に及ぶ、シーボルト氏文化年間魯國より我邦に使せしレサント氏の著せる日本紀事を藏す、出して高橋氏に示す、氏此書を我邦に益あるを以て大に希望し、是書を得ん事を欲し、百方請求すれども、彼敢て不與、此時彼も亦我邦圖を求むる事切なりといへども、當時國禁第一の者なるを以て得るに道なし、此に至終に竊に謀る所あり、兩情其所好に投じ、高橋氏密に伊能氏の測量圖を縮寫し、附するに天度を以てし、贈りて以て其書に換ふ、此事後日發覺し、皆刑罰を蒙る、從是此圖和蘭國に入る、彼採て其國都に鏤刻す、英佛も亦其都府に翻刻し、彼諸州支那并に我邦航海の用缺くべからざるの海圖となれり、これその大略なり、

〔栗山文集序記〕新刻日本輿地路程全圖序